

LIFE LIGHT LOVE



「**地面に字を書くイエス**」 (ヨハネによる福音書 8:1-11)

#### 「姦通の女」の一場面。

姦通の罪を犯した女を律法学者やファリサイ派の人々が攻め立てる中、地面にかがみ込み、字を書いているイエス。

第6回 泉キャンパス礼拝堂 ステンドグラス紹介

# 「せんくら頌|

「せんくら」すなわち「仙台クラシックフェスティバル」は、今年の10月初めに2年ぶりに開催されました。ぼくはベートーベンとバッハを聴きに行きました。

「せんくら」は、とてもよく工夫された企画です。演奏会は、45分か1時間で通常の半分以下の時間に設定され、演奏者は優秀な若手が中心です。さらにチケットは1300円、1800円という、手ごろな価格で気楽に楽しめます。実際、仙台の市民が若い演奏家を支えて、温かく応援しています。

音楽は言葉ではなく感情です。「音楽についての批評は、 感動の前では全て崩壊する」と、日本の音楽批評を確立した



吉田秀和は書いています。つまり感動の前で言葉は意味を失うのです。その感動は人を柔和にします。学院のキャンバス全体がいつもそういう柔和と善意(bonae voluntatis)に満ちた場所であるように。

(理事長特別補佐〈宗教センター担当〉鐸木 道剛)

次回:第47回水曜公開礼拝(公開オンライン礼拝) 11月8日配信予定

学校法人東北学院ホームページをご覧ください。

【第1部 礼拝】

説教:木村純二(本学文学部教授) 奏楽:今井奈緒子(大学教養学部教授)

【第2部 音楽による賛美】

演奏: 今井 奈緒子

独唱:高橋 絵里(ソプラノ)



# 第46回 水曜公開礼拝報告 (説教:田島 卓、奏楽:菅原 淑子)

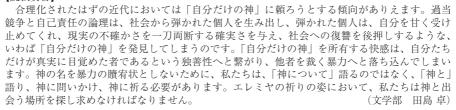
2021年10月25日(月) 公開オンライン礼拝

讃美歌:285番「主よ、み手もて」 聖書:エレミヤ書 8章8-13節

讃 美 歌:391番「ナルドの壺」 説 教:「神への問い」

頌 栄:544番「あまつみたみも」

### 【説教要旨】



前奏: J.S.バッハ作曲 コラール前奏曲「いと高きところには神にのみ栄光あれ」BWV662 この曲は「ライプツィヒ・コラール集」の第12曲目で、原曲は古来のグローリア旋律に基づいており、N.デーツィウスが歌詞をドイツ語に訳し、1593年にライプツィヒで出版された「宗教歌曲集」に収録されました。3声の対位法の序奏の後に、雄麗な装飾をまとったコラールが現れます。

後奏: J.S.バッハ作曲 コラール前奏曲「最愛のイエスよ われらここに集いて」BWV731

バッハは様々なコラールをオルガン独奏用に編曲しました。《27のコラール》の第18番目にあたるこの曲は、優しい響きの旋律が、装飾とともに甘美に歌われます。

(本学礼拝オルガニスト 菅原 淑子)



## 礼拝後、音楽による賛美(オルガン独奏:菅原 淑子)

#### 1. J.A.ラインケン作曲 フーガト短調

99歳の高齢に至るまで、ハンブルク聖カタリーナ現役教会オルガニストとして活躍しました。即興の名手としても名声を博し、97歳の彼の前で、バッハが即興演奏を披露したことは有名です。この曲は、バッハにも影響を与えた北ドイツ風対位法作品です。

#### 2. マックス・レーガー作曲 序奏とパッサカリア 二短調

レーガーは、オルガン曲の数の多さからも、ドイツのオルガン 後期ロマン派の最も重要な作曲家と言えます。レーガーが、オル ガンを「演奏会用の第一級の楽器」と呼んだことも有名です。

彼自身はカトリック信徒でしたが、バッハの影響もあってコラールに基づく作品も多く残しています。

「序奏とパッサカリアニ短調」は小規模ながらもレーガーの魅力が伝えられる、人気の高い作品です。 (菅原 淑子)



### 東北学院の草創期(11)「最初の学生」

### 一 ② 安部 保次郎 一

安部の原籍地は押川と同じ伊予松山ですが、どのような事情で仙台に来たのかは不明です。仙台教会の会員名簿には、押川から1886年10月に洗礼を受けて「仙台神学校内に居住」とあることから、受洗後まもなく献身して神学校には多少遅れて入学したものと思われます。しかし彼も「忍耐強く勉学を続けられなくなり、早く実際活動に入りたかった」(ホーイの手紙)のか、1890年の12月には神学校を退学して三重県の鳥羽で伝道活動を開始します。

鳥羽での伝道開始からわずか1年後の1891年、当時日本の未熟なキリスト教世界に入り 込み始めていた「宇宙神教」の機関紙『自由基督教』には、安部は「信仰の変動よりして 過般宇宙神教々会に加入」と報じられています。宇宙神教は、神の愛を強調し、最後の審

判では異教徒や悪魔をさえ含めて、すべての霊魂が 救われると説く「万人救済」の立場を取るもので、 伝統的な正当信仰とはかけ離れたものでした。同教 団の要職に挙げられて大阪で華々しい活動を展開し た安部は、1895年に東京の赤坂溜池教会の担当牧師 に転じたのを最後に、その年の暮れには辞任し、そ の後の消息は不詳のままです。

ΨГ

当時日本のプロテスタント教界を二分した「新神学」の影響を、最初期の仙台神学校もその出身者も受けてしまったと言えます。

(東北学院史資料センター 日野 哲)



宇宙神教の教職者たち(安部は前列左端)

# - 建築が語る東北学院の歴史 (6) -

建築家 Jay H.モーガンが設計した土樋キャンパスの建築 (本館、礼拝堂、正門) には、チューダー・アーチと呼ばれる造形が内外に繰り返し用いられています (fig.1-4)。もとは15世紀末から17世紀初頭にかけてのイギリス (チューダー朝) に興った造形で、中世のゴシックや城郭建築の様式にルネサンスの影響が加わって生まれたものと考えられています。

Jay H.モーガンが建築を習得した米国では、19世紀末以降、大学建築を中心にカレッジ・ゴシックと呼ばれる様式が流行しました。19世紀初頭以来のゴシック・リバイバルの延長線上に、コロンビア大学のハミルトン・ホールが重要な契機となって、チューダー・ゴシックを参照源とする建築が広く流行するに至ったと言われています。そうしてモーガンは、当時流行の米国大学建築の新様式を仙台に持ち込みます。イギリスからアメリカを経て仙台へ。これらは、時空を超えて届けられた造形と言えます。

(工学部 崎山 俊雄)



fig. 1:礼拝堂内部



fig. 2:礼拝堂外観

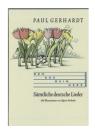


fig.3:本館正面



fig. 4:正門

### ゲルハード記念室とパウル・ゲルハルト(2)



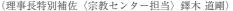
2019年刊行豪華本



2006年発売CD

パウル・ゲルハルト(Paul Gerhardt 1607-76)はマル チン・ルター以降、ドイツ・プロテスタント最大の替 美歌作詞家です。特に2007年は生誕400年記念の年と いうことで、それ以降も、たくさんの書物が出版され ました。2013年にはレクラム文庫にも入りました。パ ウル・ゲルハルトの詩は、日本の讃美歌でも10曲、讃 美歌第二編で3曲入っています。

中でも最も有名な替美歌は、受難のイエス・キリス トを歌った讃美歌136番の「血潮(ちしお)したたる主 の御かしら(O Haupt voll Blut und Wunden)」です。 この歌詞はクレルヴォーのベルナール(1090-1153)作 と伝えられていたラテン語詩の翻訳を下にパウル・ゲ ルハルトが作詞したもので、ハンス・レオ・ハスラー (Hans Leo Haßler 1564-1612) 作曲の世俗曲「私の気 持ちは千々に乱れ (Mein Gemüt ist mir verwirret) | のメロディーで歌われ、パウル・ゲルハルト作詞の最 も有名な賛美歌となりました。バッハも『マタイ受難 曲』と『クリスマス・オラトリオ』の中で、重要な受 難のモチーフとして使っています。





生誕350年記念切手



没後400年記念切手



2013年刊行 レクラム文庫

### 美術による替美(9)



イサク・ディーネセン 1958年作 ちくま文庫

神さま、あるいは天国を再現する芸術は美術や音楽だけで はありません。

『ヨハネ第1の手紙』に言います。「初めからあったもの、わた したちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て手でさわったも の、すなわちいのちの言について」(第1章1-2節)。

ここでは聴覚 (音楽)、視覚 (絵画)、触覚 (彫刻) が挙げ られていますが、神さまは受肉して、すべての感覚の対象に なったのです。ですから、味覚(料理)、嗅覚(香水)も芸術 です。つまり料理や香水によっても、おぼろにも天国の体験 ができるのです(『コリントの信徒への手紙1』13章12節)。そ れは天国の先取りです。料理芸術については『バベットの晩 パトリック・ジュースキント 餐会』(左)、香水については『パフューム』(右)があります。 いずれも名作小説です。映画化もされています。(鐸木 道剛)



1985年作 文春文庫



いのち ひかり あい

東北学院スクールモットー LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

#### 東北学院宗教センター編「水曜通信」 第12号

2021年11月2日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 発行責任者:宗教センター主任 野村 信 東北学院宗教センター TEL: 022-264-6558

Email: c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp